

# 奥能登国際芸術祭作品公募資料

2016年10月  
奥能登国際芸術祭実行委員会



奥能登国際芸術祭について . . . . .	3
珠洲市概要 . . . . .	4
作品展開候補場所 . . . . .	6
珠洲市資料 . . . . .	25
参考文献 . . . . .	35

## 奥能登国際芸術祭について

奥能登・珠洲は、能登半島の先端に位置し、周囲を日本海に囲まれた農山漁村です。黒潮（暖流）、親潮（寒流）がぶつかり、大陸からの季節風が海の水蒸気を含んで雨を降らし、外浦（北側）と内浦（南側）を有する独特の地勢も重なって、東西の植生が共存する豊かな植物・生物相につながっています。遣唐使、渤海使、北前船など、かつて日本海を舞台とした海上交易が盛んだったころ、さまざまな船が立ち寄り栄えましたが、海運から陸運に交通体系が変わったことで半島の先端という立地が弱点となり、過疎化が進行してきました。1954年に市制が施行された当時38,000人の人口は、現在では15,000人となっています。

珠洲は今までの価値観では日本列島のさいはての土地です。しかし日本各地の生活文化が集積し、そのあらわれである祭りはキリコ、曳山やヨバレの風習として今も残る日本文化の源流が湧き出ずる場所でもあります。それは今の時代、逆に希望のありかとしての特異点になるものです。

奥能登国際芸術祭は、その土地・生活・人々の魅力を再発見するアーティスト達が参加し、珠洲の人、地域外からのサポーターを含め大勢でつくりあげる、今までにない新しい芸術祭を目指しています。外浦から内浦にかけて展開されるアートは、奥能登の岬めぐりの新しい道しるべとなり、列島と大陸の関係を含めた親潮文化のこれからのあり方を示唆してくれることでしょう。旅の道中に味わう海と山の食材をふんだんに使った伝統的な料理、海からの神に関係するといわれるキリコ、珠洲焼、揚げ浜式の塩田、能登瓦などは、まさに日本文化の基層へと私たちを誘います。

地球環境の悪化と資本主義の倫理性が問われ、日本列島の成立と未来を考えなくてはならない現在こそ、珠洲の持っている日本文化の原型、忘れられた日本が意味深いものになるでしょう。伝統的な文化と最先端の美術が響きあう芸術祭をめざします。

奥能登国際芸術祭総合ディレクター 北川フラム

## 開催概要

コンセプト	最涯の芸術祭 ～日本の祭と食文化の源流を探る～
会期	2017年9月3日（日）～10月22日（日）
会場	石川県珠洲市全域
参加作家	50組（予定）
主催	奥能登国際芸術祭実行委員会
実行委員長	泉谷満寿裕（珠洲市長）
総合ディレクター	北川フラム
公式ウェブサイト	<a href="http://oku-noto.jp/">http://oku-noto.jp/</a>



# 珠洲全景



揚げ浜式製塩



ゴジラ岩



椿展望台



禄剛埼灯台



のとキリシマツツジ



棚田



仁江海岸の夕日



あえのこと



曾の坊の滝



「ヨバレ」



見附島と北アルプス



高照寺の倒さスギ



珠洲市観光ガイドより



キリコ祭り



早船狂言



珠洲焼



鉢ヶ崎海岸

## 珠洲市について

能登半島の最先端に位置し、三方を海に囲まれた珠洲市。北からの寒流と南からの暖流が交わる場所。荒々しい岩礁海岸の外浦と、波穏やかな砂浜の内裏という2つの海をもつ、美しい自然景観が自慢のまちです。黒瓦と板壁の家が軒を連ね、日本の原風景を感じさせる町並みが今も残っています。

豊かな里山里海の中で育まれた固有の文化も多く「奥能登珠洲の秋祭り」と「ヨバレ」に象徴される「祭り」と「食」の文化や農耕儀礼「あえのこと」などの地域文化が受け継がれています。揚浜式製塩や炭焼き、珠洲焼、珪藻土を使った七輪などの伝統産業も大切に受け継がれています。これらの伝統的な技術や農耕儀礼、豊かな「能登の里山里海」は2011年に世界農業遺産（GIAHS）に認定されました。

珠洲市では春・夏・秋のシーズンごとに各集落において五穀豊穡を願い祝う「村祭り」が行われています。特に秋のシーズンは9月上旬から10月下旬の約50日間、連日市内のどこかの集落で秋祭りが行われています。秋祭りではお神輿の灯り役として「キリコ」を担ぎます。その数はなんと100基以上。

「ヨバレ」とはキリコの担ぎ手に精を出してもらうために自宅において主人が酒と食事をふるまうもの。珠洲市では「ヨバレ」が現在でもほぼ全ての祭りで行われており、親戚や友人知人を御膳料理でもてなしています。珠洲市には、日本のおもてなし文化の原型が残っているのです。

この「奥能登珠洲の秋祭り」と『ヨバレ』は第19回「ふるさとイベント大賞」総務大臣表彰を受賞しました。また、2015年には「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」が日本遺産に認定されています。

美しい「里山里海」、豊かな「食」、そして何よりも素晴らしい「人」が暮らしている珠洲市。日本の祭りと食文化の源流が伝わるまちです。



## アクセス

### ○東京から

[飛行機の場合] 約2時間

羽田空港～のと里山空港：飛行機/約1時間

のと里山空港～珠洲市内：車/約40分

[電車の場合] 約5時間

東京駅～金沢駅：新幹線/約2時間半

金沢駅～珠洲市内：車または特急バス/約2時間半

### ○大阪から 約5時間半

大阪駅～金沢駅：JR特急サンダーバード/約2時間半

金沢駅～珠洲市内：車または特急バス/約2時間半

### ○名古屋から 約5時間

名古屋駅～金沢駅：新幹線・JR特急しらさぎ/約2時間半

金沢駅～珠洲市内：車または特急バス/約2時間半



## 日置地区

## 旧日置小中学校 (小学校部分)

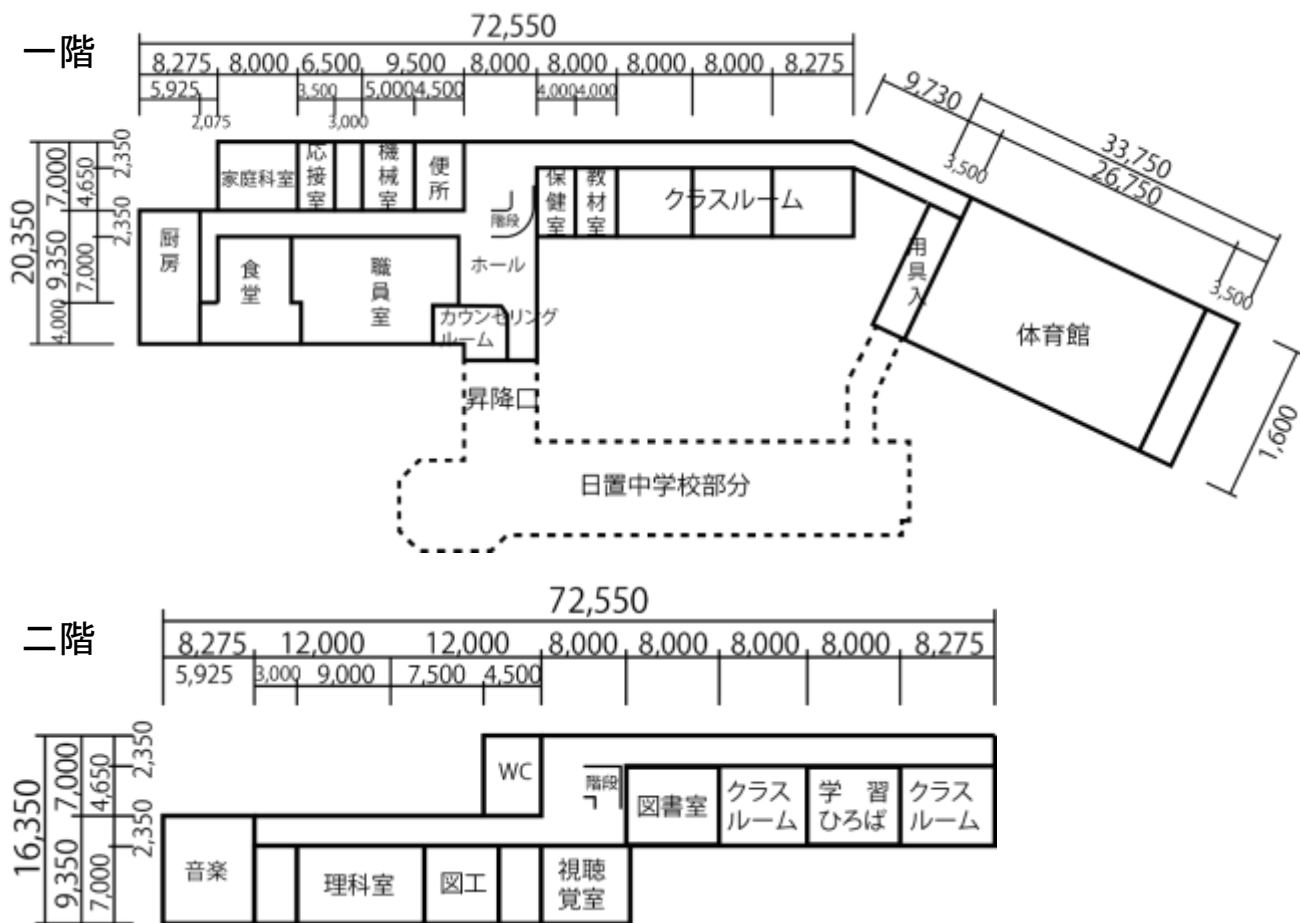


要件	施設内全体を活用したインスタレーションやパフォーマンスなど幅広いジャンルの企画が可能。中庭と体育館も利用可能。グラウンドは、イベント利用のみ可能。併設する旧日置中学校は簡易宿所として改修され、2017年春完成予定。サポーター等の宿舎として利用されるため、滞在制作も可能。
展示期間	会期中、会期外問わず
住所	珠洲市折戸町ヌ-8
施設概要	1981年に建設され、2005年に閉校。 併設する中学校部分は1993年に建設され、2005年に閉校。
付帯設備	駐車場（15台程度）、中庭、体育館、グラウンドあり 小学校部分は電気、水道不通
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



■見取り図・写真



中庭



校舎下のグラウンド



階段



卒業生が作成したモニュメント

奥能登国際芸術祭作品公募資料



昇降口

## 三崎地区

## 金沢大学能登学舎（旧小泊小学校）



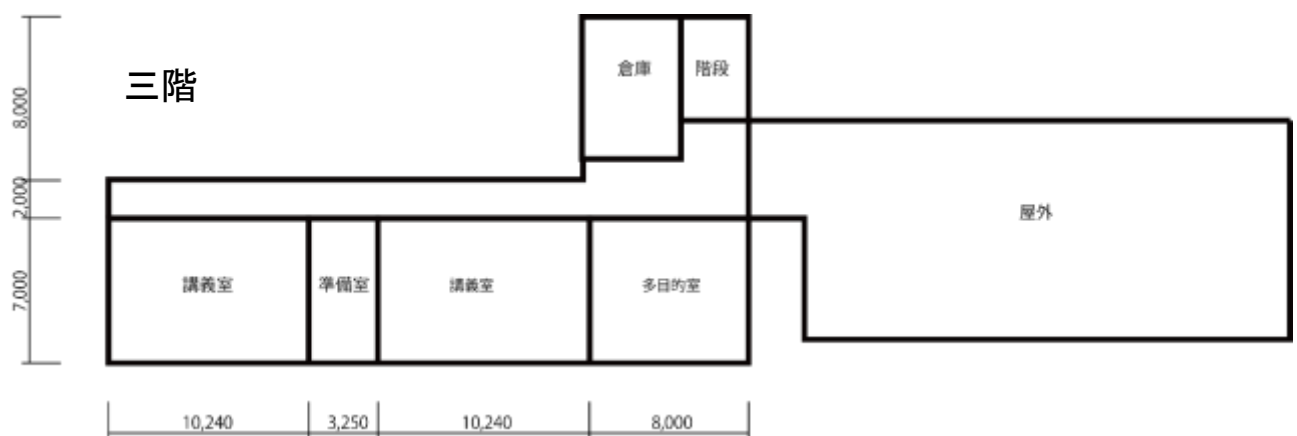
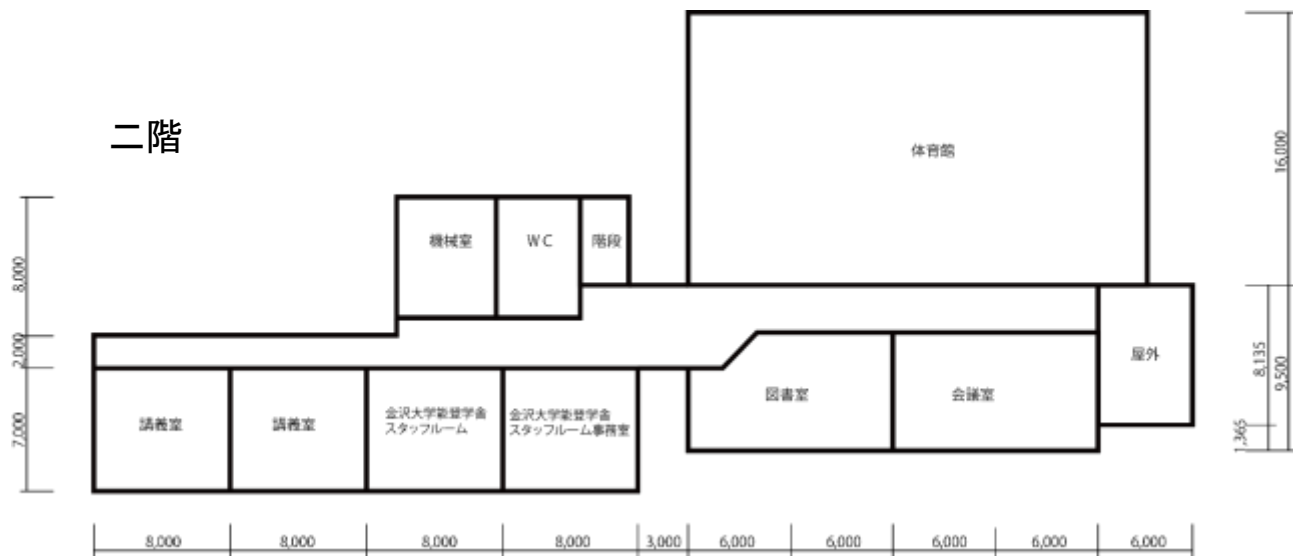
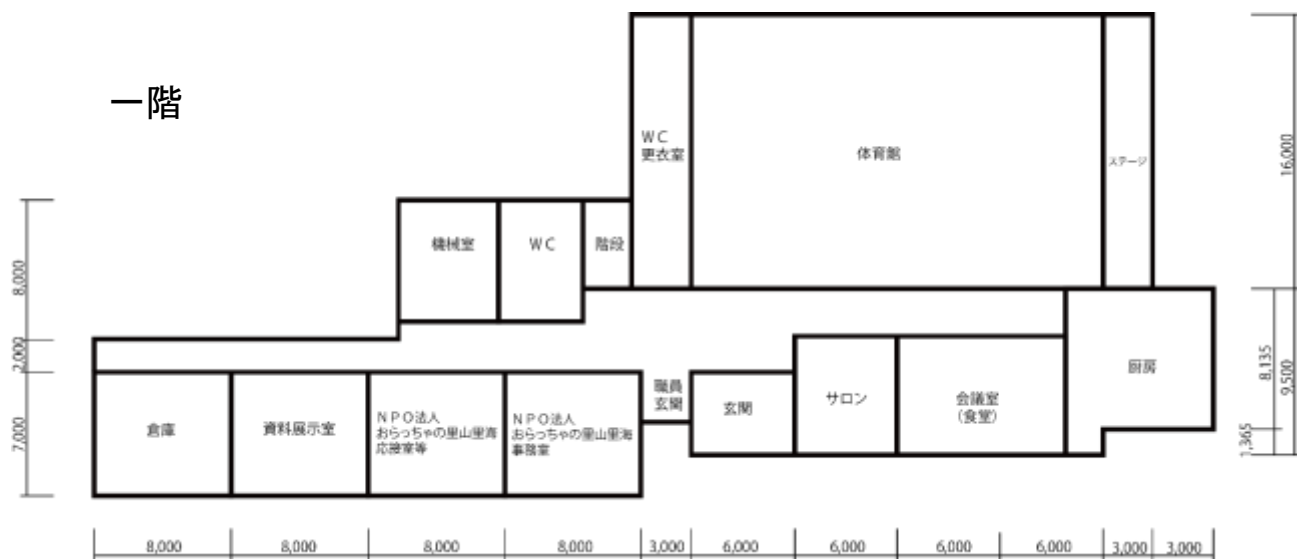
要件	金沢大学が年間を通じて「能登里山里海マイスター」育成プログラムを実施している施設。そのため、当該プログラムで利用されることが少ない体育館や校庭での展開が可能。その他にNPOの事務所もあるので、展開場所・時期・内容については要協議。
展示期間	要相談
住所	珠洲市三崎町小泊33-7
施設概要	1980年に開校し、2004年に統廃合により廃校。2006年から里山里海自然学校として活用し始める。 現在、金沢大学能登里山里海マイスタープログラムを実施中。 ※作品展開等に関する問い合わせは、奥能登国際芸術祭実行委員会まで。
付帯設備	駐車場あり（校庭を含めば20台程度） 校庭あり
所有者等	所有者：珠洲市 使用者：金沢大学

## ■施設所在地





■見取り図・写真



## 三崎地区

## 小泊保育所

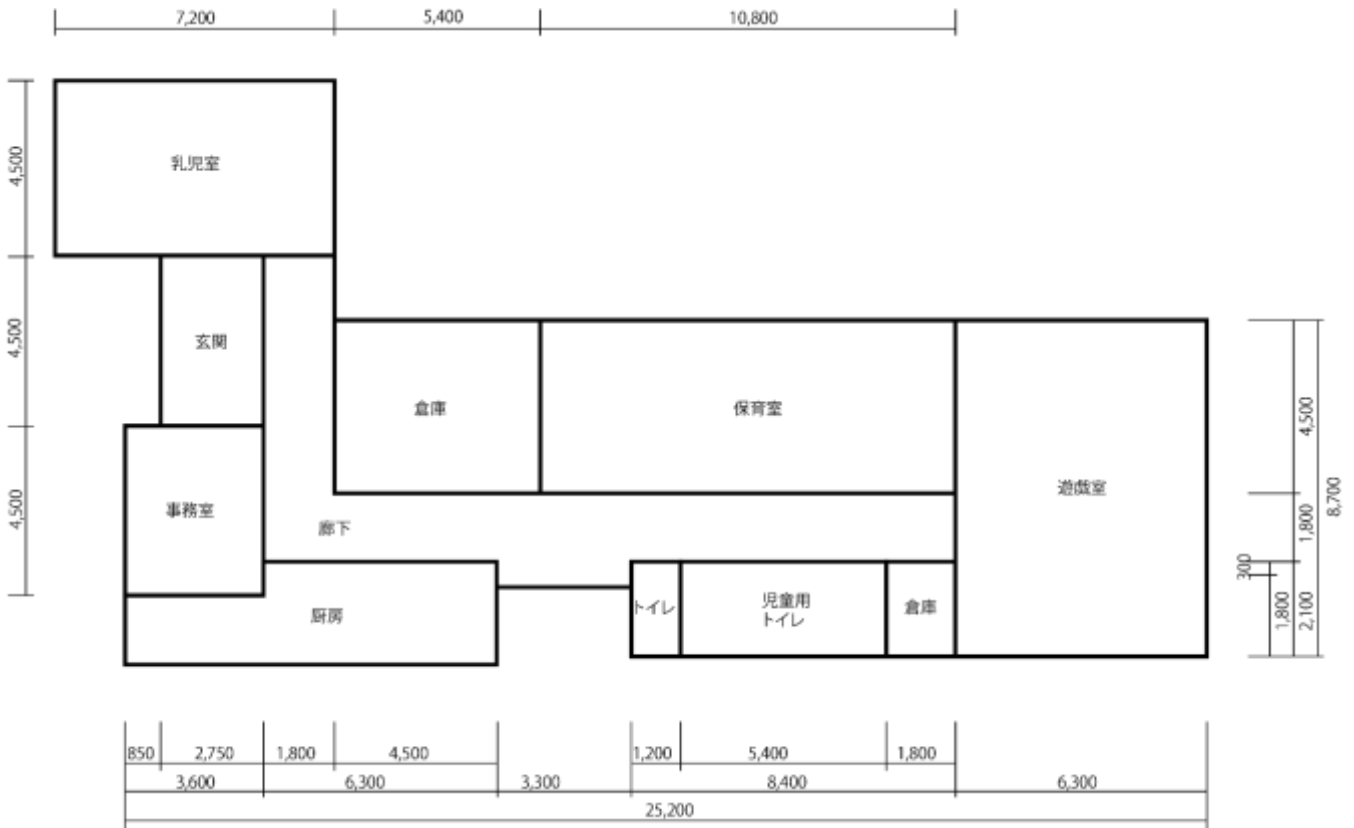


要件	施設内全体を活用したインスタレーションやパフォーマンスなど幅広いジャンルの企画が可能。金沢大学能登学舎の裏手に位置する。
展示期間	会期中、会期外問わず
住所	珠洲市三崎町小泊17-33-1
施設概要	2016年度末まで保育所として利用されるが、その後閉所。
付帯設備	駐車場あり（10台程度）※金沢大学能登学舎を含まず
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



■見取り図・写真



遊戯室の舞台



保育室

## 蛸島地区

## 「わくわく夢らんど」の巨大遊具

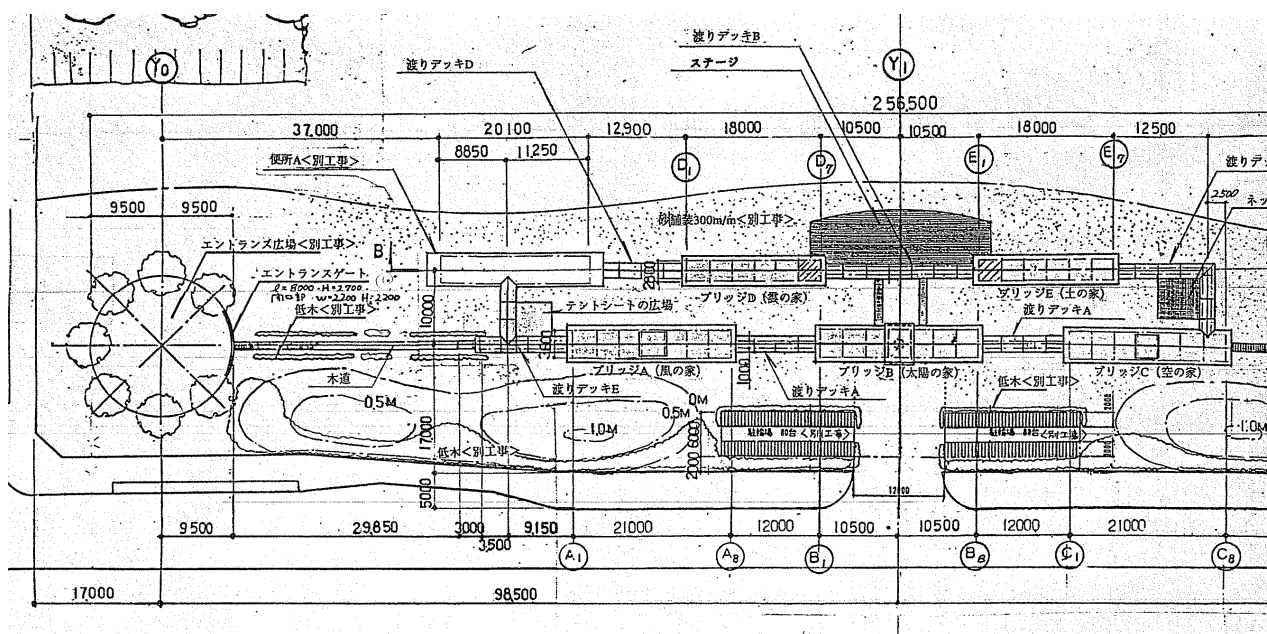


要件	設計者の意図を汲んだイベントや新しい遊具・機能の追加。
展示期間	会期中 ※遊具や設備などの追加の場合は会期外も応相談。
住所	珠洲市蛸島町鉢ヶ崎メ部28番地
施設概要	環境デザイン研究所が設計。 1995年建設。
付帯設備	駐車場、公衆トイレあり
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



■見取り図・写真



## 飯田地区

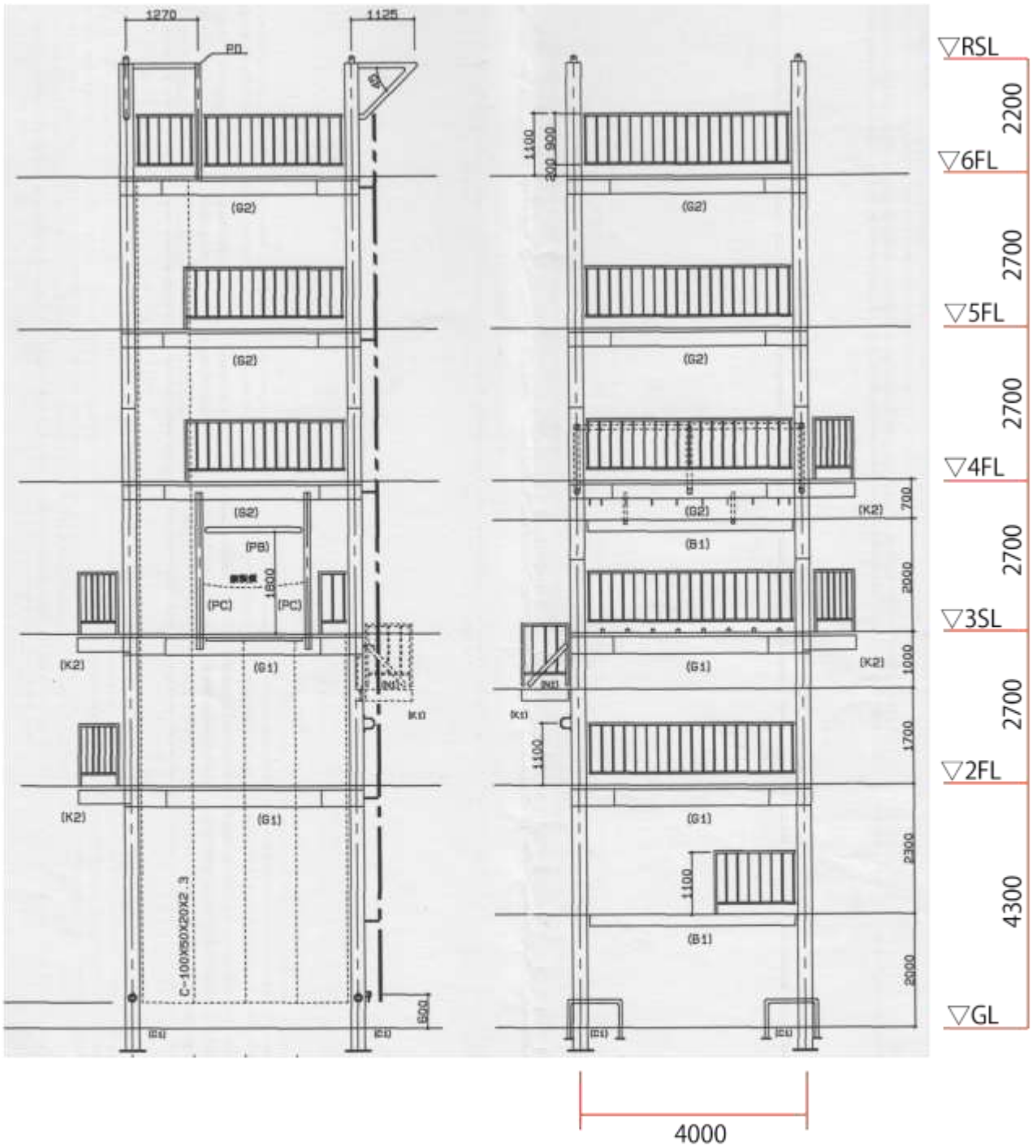
旧消防庁舎、訓練塔  
(現奥能登国際芸術祭事務局)

要件	旧消防庁舎の外壁、訓練塔全体を利用したインスタレーションが可能。
展示期間	会期中、会期外問わず
住所	珠洲市飯田町13-120-1
施設概要	2016年3月まで消防庁舎として利用。 同年5月からは芸術祭の事務局として利用。
付帯設備	駐車場あり (7台+α)
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



■ 立面図



## 宝立地区

## すずサンサンパーク



要件	太陽光発電のパネルを囲う柵の外側が対象敷地。 インсталレーションやパフォーマンスなど幅広いジャンルの企画が可能。 ※太陽光パネルの照射に影響のあるものはNG
展示期間	会期中、会期外問わず
住所	珠洲市宝立町鵜島5-79-4
施設概要	旧宝立小学校跡地を活用し、北陸電力㈱がメガソーラー発電所を建設。 宝立小学校は、2012年廃校。
付帯設備	駐車場（20台程度）
所有者	珠洲市

## ■施設所在地





■見取り図、写真



学校の門扉や二宮像などが残っている

敷地内の遊具はアーティストの作品

## 宝立地区

## 旧柏原保育所

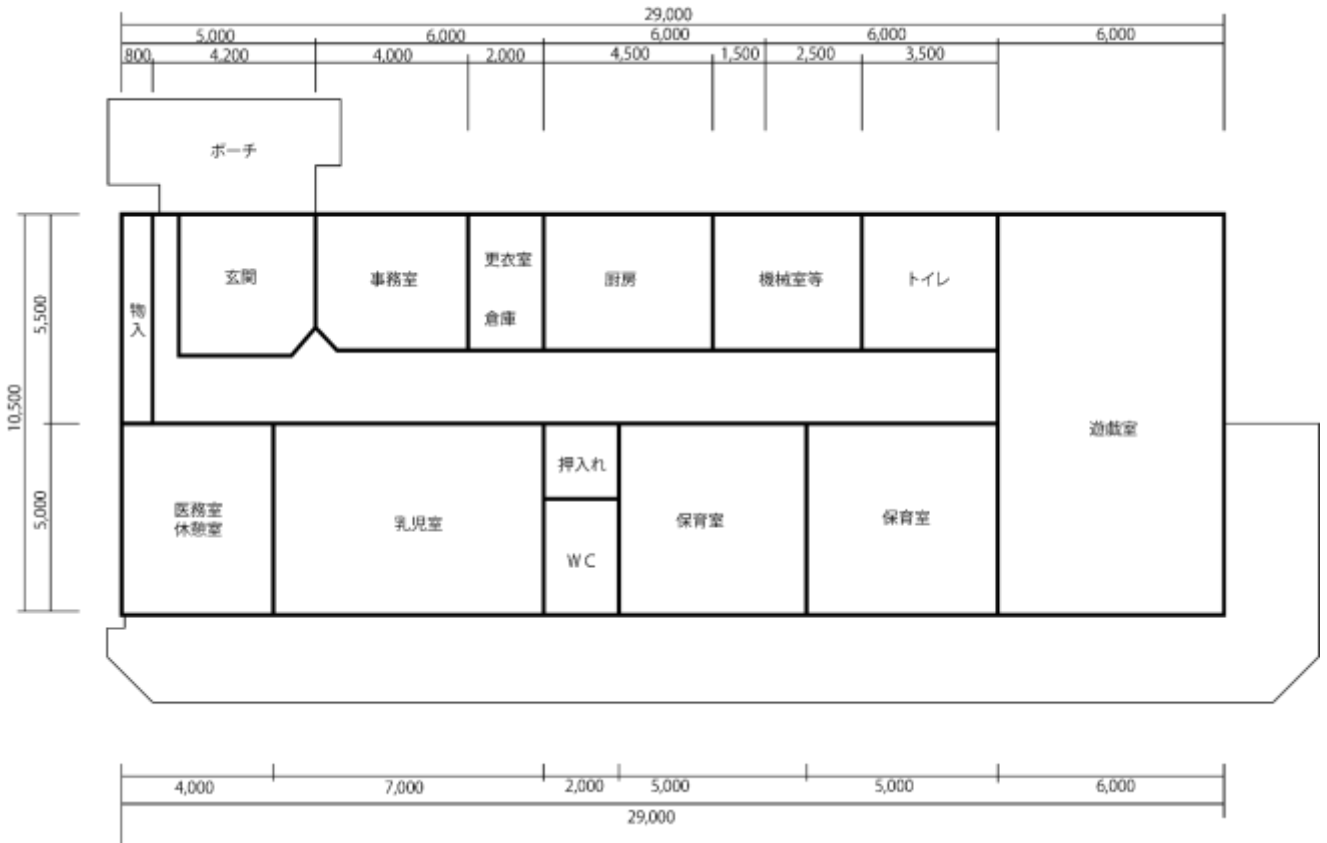


要件	施設内全体を活用したインスタレーションやパフォーマンスなど幅広いジャンルの企画が可能。
展示期間	会期中、会期外問わず
住所	珠洲市宝立町柏原38-48-10
施設概要	1980年に建設され、1994年に閉所。 現在は、地域住民がイベント等で利用する備品の倉庫として利用。
付帯設備	駐車場あり（10台未満） 水道電気は不通
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



■見取り図・写真



遊戯室内



保育所当時の演劇の道具なども残っている



グラウンドは地域住民が利用



遊戯室内



保育室の外壁

## 宝立地区

## 見付公園



要件	公園内でのインスタレーションや、パフォーマンス等の幅広いジャンルの企画が可能。一部、国定公園内のため規制あり
展示期間	基本的に会期中 会期外の利用は要協議
住所	珠洲市宝立町鶴飼1-38
施設概要	見付島を核とした市民交流の場と観光振興拠点の充実のために1998年に完成。
付帯設備	駐車場あり（100台程度）
所有者	珠洲市

## ■施設所在地



東

# 整備概要

珠洲市のシンボル  
見附島を核とした  
市民の交流の場と  
観光振興拠点の発  
展のため計画を策  
定。



平成3年7月に建設大臣の  
認定を受けています。



認定の範囲は雄略川から舟橋川までの汀線延長1,160m、面積58ha。

このうち、第一期計画として既設公園2.9haに  
隣接した陸域部5.3haを平成5年度から9年度  
までに16億円をかけて整備  
しました。



見州島側には噴水広場や子供の広場を配し、園内道路で結んだ恋路側の海浜部には朝日の広場と景観と景観に配慮した緩斜地遊歩や人工リーフを整備し、安心して水に親しめる空間を創造しています。

北

“藍と緑のロマンの里 フレッシュライン見附”パンフレットより

その他、作品展開可能な場所や施設



空き家



保全林



海岸線



公園や空き地



2007年に開催された第14回日本ジャンボリーの跡地も利用可能。2018年に再度ジャンボリー開催予定

## 珠洲市について

石川県の北東端に位置し、西は輪島市に接し、北・東は外浦（日本海）、南は内浦（富山湾）に面する。三方を海に囲まれ、地域のほとんどは標高200～300mの低丘陵と樹枝状の小さな河谷（かこく）によって占められる。最高峰は宝立山471m、最も大きな河は若山川で流域が面積52km<sup>2</sup>。

内浦側は緩傾斜で海岸平野を形成、外浦側は猫ヶ岳、見平岳、鞍坪岳から禄剛崎へと続く峻険な断崖地形を持った岩石海岸をなす。

人口の大部分は、波が静かな富山湾沿岸の平野部に集中する。市域の8割強が林野で占められ、農林業のほか古代以来の漁業・窯業もみられる。変化に富む海岸線の多くが能登半島国定公園に指定されている。

郡名「珠々郡」の由来は、この地域に設置された烽（とぶひ）/狼煙（のろし）の古訓の「すすみ」という説が有力。



内灘町以北の市町を指して「能登地方」と呼ぶ。  
その中でも、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町を指して「奥能登地方」と呼ぶ。

## 古代

古墳後期の横穴群は、若山川の河谷を中心に、確認されているもので200基あり（推定500基を上回るとされる）、石川県内最高の集中度をもっている。土器製塩の遺跡が11か所発見されており、古代の能登半島が若狭湾や佐渡などとともに、日本海側における有数の製塩地帯であったことが推定される。

式内神社といわれる3神社のうち、須須神社の祭神は、オオクニヌシと高志国のヌナカワヒメとの間に生まれたと伝承するミホススミノミコトとされ、出雲と越後との交渉を物語る伝承といえる。また、古麻志比古神社（若山町）は高句麗系の客人神とみられ、高倉彦神もこれに類すると伝えられることから、大陸からの渡来者による開発も少なくなかったと思われる。

対馬海流が北岸を流れるため、日本海の対岸からの人や物資の渡来例が多く、渤海国使の一行104人が着岸したこともある。日本海の対岸諸国や東北日本の日本海沿岸域への交流の要衝にあたり、軍事的にも重要な位置を占めた。平安初期の行政機構の整理と負担の軽減策の一環として、珠洲に至る6駅と駅路が廃止された。

## 中世

12世紀から15世紀にかけて、各地で珠洲焼が生産され、舟運によって日本海や富山湾・七尾湾の沿岸地域に流通した。壺、鉢、甕が多く、日常雑器を主体とするが、古い時期には花瓶や水差しもつくられていた。窯跡の分布は中世の有力寺院の位置と一致し、何らかの形で寺が生産や販売に関与していたと推定される。

宝立山や山伏山は、白山・石動山の修験団につながる霊場であり、白山宮や高座宮とともに、この地域の宗教的世界を支えていた。戦国期には真宗本願寺派の教線が伸張し、寺の改宗や地域内の門徒組織の形成が進み、1490年には一向一揆がおきている。



海から引き上げた珠洲焼。  
舟運の際、海に落下したもの。



珠洲焼の窯跡。西方寺窯。（宝立地区）

## 近世

江戸期を通じて加賀藩領となる。飯田村に算用場を置き、十村制度がはじまる。定置網漁業が盛んで、鯨・鰯・鱈・イカが特産だった。吹上の榎（かや）の実、鶺鴒の蠣、金峰寺の唐竹、法住寺の千年草、飯田の小刀、三崎のワカメ、川浦の火打石、折戸のウニ、馬縹の木の葉石（このはいし）が名産であった。蛸島素麺も有名で、北前船で各地に移出された。加賀藩は早くから塩の専売制を施行し、その過半は珠洲で生産された。人口に比し耕地が少ないという条件が、製塩者に不利な取引条件を強要させた。製塩労働はきわめて厳しかったとされ、幕末期には「珠洲郡上戸村鳥居浜の辺は、取わき塩釜多き所なり・・・彼塩汲女は炎天にさらされ、いつ髪を結ひしにもあらず、腰きりなる布子に縄帯して、色こそ黒けれ、髪こそ乱るれ、猿ともなく貉ともなく、人とは更に見え分ず、何ぞ男女の別を見んや」との記述がある。



揚げ浜式製塩の作業風景



上戸町祭礼の曳山。昭和初期までは浜辺で曳山を曳いていた。浜辺の砂を製塩に適した状態に踏み固めることが目的だったとされる。



## 近代

廃藩置県とともに藩による貸米制度の廃止で塩土が困憊、藻寄行蔵らの尽力で一時的に持ち直したが、日露戦争による専売制の実施が直接の原因となって生産性の低い揚浜製塩は逐次衰え、昭和当初に内浦海岸から姿を消し、最後に残った外浦西海地区も、1959年（昭和34年）を最後に廃絶した。

稲作技術の改良、漁業・炭焼き・養蚕のほか、瓦製造、珪藻土工業など、製塩の衰退に代わる各種産業の導入の試みが行われていた。余剰労働力は出稼ぎにまわり、特に能登杜氏に代表される酒造出稼ぎは、大きな収入源であった。しかし生産力が十分でないため、明治期には北海道への多数の移住者を出しており、昭和前期には満洲への分村を行った地区もある。

1954年（昭和29年）に飯田・宝立・正院・上戸・若山・直・蛸島・三崎・西海が合併し珠洲市となる。合併時の世帯数は7,264、人口は38,157人。1968年（昭和43年）、能登半島国立公園の一部となり、1970年（昭和45年）には木の浦が海中公園に指定された。しかし、高度成長や減反政策に伴う人口流出が著しく、1970年に過疎地域に指定される。過疎化への対抗手段として観光開発か原発誘致からの選択を迫られ、長く地域を二分した。



藻寄行蔵。廃藩置県によって塩手米制が廃止されたことで困窮した製塩業の存続のため、その資金調達に奔走した。

1954年（昭和29年）7月の市制施行当初の市役所庁舎



原発誘致反対を訴える看板。  
2003年（平成15年）12月、電力各社が電源立地計画の凍結を申し入れ、それを受諾した。



2007年（平成19年）8月、バイオメタン発酵施設供用開始。以後、再生可能エネルギーの生産、世界農業遺産の認定、金沢大学との連携事業である里山マイスター育成講座の開講など、「自然と共生する珠洲市」へと舵をきる。

## 文化財など

国指定の重要文化財として、須須神社の木造男神像5体、法住寺の木造不動明王坐像、黒丸家住宅4棟、白山神社本殿1棟がある。国指定重要有形民俗文化財として、能登の揚浜製塩用具166点と能登の漆掻きおよび加賀・能登の漆工用具1,445点が上戸町の「喜兵衛どん」に収蔵されている。重要無形民俗文化財に奥能登のあえのこと、能登の揚浜式製塩の技術がある。史跡として珠洲陶器窯跡がある。天然記念物に須須神社社叢（2か所）がある。戦前の重要美術品に指定された法住寺白山神社の木造獅子頭は1372年の紀年銘をもつ。

県指定では、曹源寺（長橋町）の木造阿弥陀三尊像3軀が有形文化財、馬縹町の砂取節は無形文化財、県指定の史跡に平時忠および一族の墳墓、西方寺古窯跡がある。須須神社奥宮社叢および高照寺の倒さすぎは県の天然記念物に指定されている。



須須神社の木造男神像5体



あえのこと



砂取節



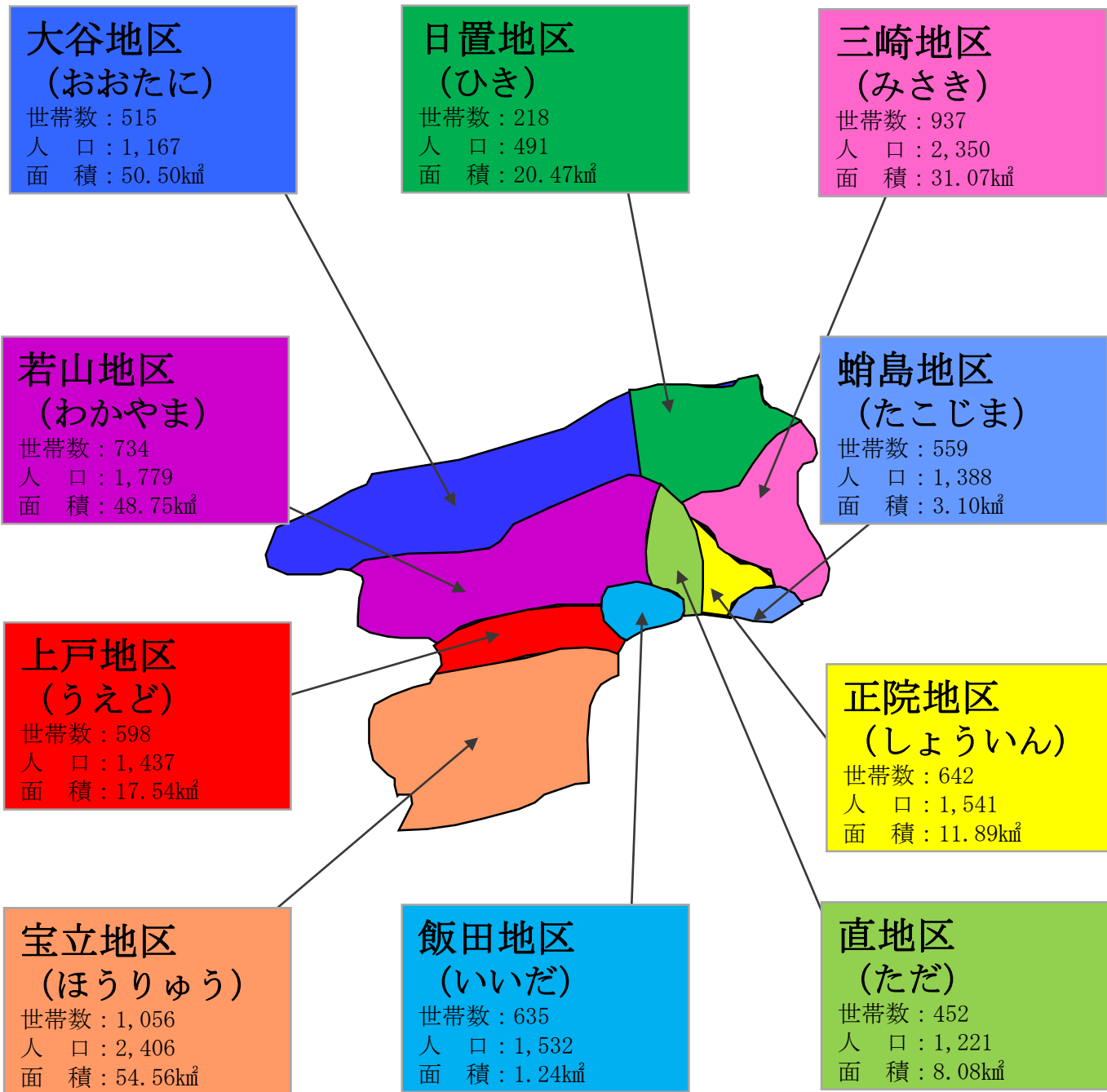
須須神社社叢



高照寺の倒さすぎ（さかさすぎ）

## 地区ごとの特徴

10地区にそれぞれ公民館が所在する。地区ごとの活動は主にこの公民館を単位として行われる。



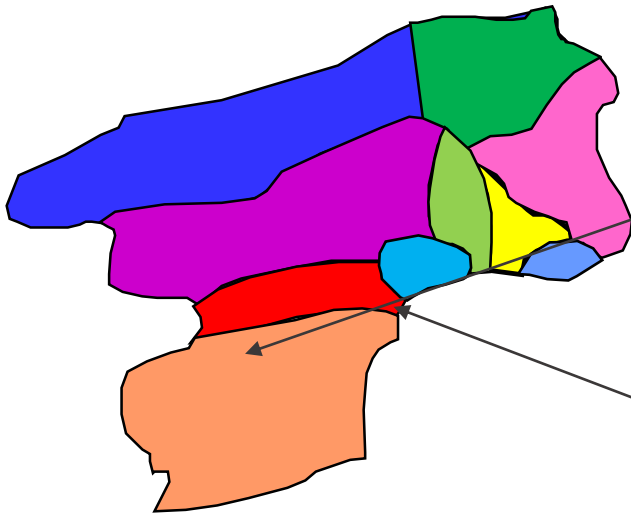
## 珠洲市全体

総面積：247.20km<sup>2</sup> 世帯数：6,346世帯

人口：総人口 15,312人 (男性 7,095人：女性 8,217人) ※日本人+外国人

年齢別人口：～14歳 1,109人(7.2%) / 15～64歳 7,132人(46.5%) / 65歳～ 7,071人(46.1%)

人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課



人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課  
河川・山岳：平成26年10月1日 珠洲市建設課  
学校：平成26年5月1日 珠洲市教育委員会

## 宝立地区（ほうりゅう）

世帯数：1,056世帯  
人口：2,406人  
面積：54.56km<sup>2</sup>  
主な河川・山岳：  
鵜飼川（10.7km）、舟橋川（4.2km）  
般若川（2.7km）、宝立山（471m）  
学校：宝立小中学校（小学校児童数61名、  
中学校生徒数38名）

## 上戸地区（うえど）

世帯数：598世帯  
人口：1,437人  
面積：17.54km<sup>2</sup>  
主な河川・山岳：  
竹中川（2.6km）  
学校：上戸小学校（児童数42名）

## 宝立地区

法立とも書く。地名は宝立山に由来。

平安から鎌倉にかけての公卿の日野資実が、法住寺を祈願寺としている。

宝立山は奥能登北東部では最高峰。「一国はいふに及ばず、近国をみおろし、所々より回船の目当となる山にて、勝景類なく実に宝嶺なりといへり」という記述がある（能登志微（のとしちょう））。

鵜飼地区の8月7日の七夕まつりはキリコが海中に乱舞する勇壮な祭りとして知られる。

1960年鵜飼温泉を掘削、1962年には能登路荘が建てられる。

鵜飼川はアユ・マス・イワナなどが生息し、市内屈指の釣り場とされた。江戸期には80石積の和船が、河口から200m余も遡上できたと伝えられる。

## 上戸地区

珠洲郡における円墳の分布地（珠洲は横穴が多い）で、もっとも早く開けたところと考えられる。

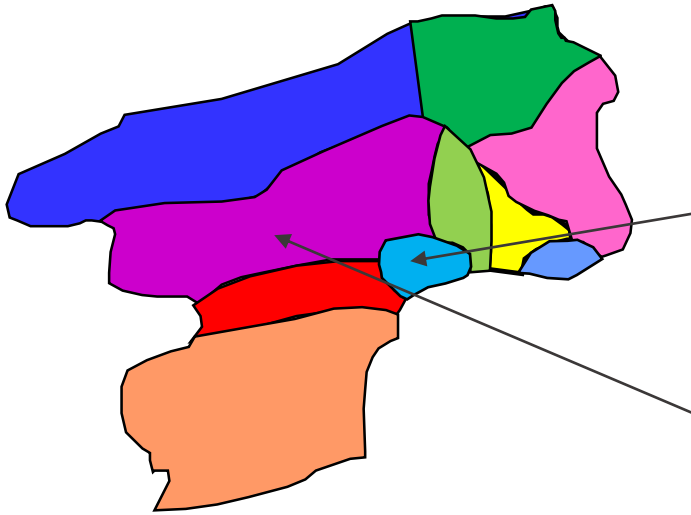
農業中心の村であったが、江戸から明治期には製塩業も盛んであった。その後不振になり養蚕を導入。

明治22年に名古屋から職工を招いて上戸縞が生産され、一時は隆盛したが大正初期には衰退。大正4年に初めて電灯がつき昭和3年にはほぼ村中に普及。

冬季には酒造の出稼ぎ（能登杜氏）が盛んで、明治30年には約300名いたとされる。

昭和10年農村経済更生村に指定される。

「喜兵衛どん」には国重要有形民俗文化財の能登の揚浜製塩用具、能登の漆掻きおよび加賀能登の漆工用具が収蔵されている。



人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
 面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課  
 河川・山岳：平成26年10月1日 珠洲市建設課  
 学校：平成26年5月1日 珠洲市教育委員会

## 飯田地区

(いいだ)

世帯数：6345世帯  
 人口：1,532人  
 面積：1.24km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
     若山川（17.4km）下流域  
 学校：飯田小学校（児童数73名）

## 若山地区

(わかやま)

世帯数：734世帯  
 人口：1,779人  
 面積：48.75km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
     若山川（17.4km）、宝立山（471m）  
 学校：若山小学校（児童数46名）

## 飯田地区

市の政治・経済・文化の中心的な場所。以前から商業地域の色彩の傾向が強く、大正2年と昭和28年の比較で、米の作付面積が30%、収穫高が40%近く減少している。

江戸末期には酒造家が5軒あった。

六斎市は数百年の伝統をもつとされ、毎月2・7の日に開催。

春日神社は、かつて若山社と称し、若山荘の鎮守とされ、近隣の春日田は神供田と伝える。

飯田港は古くから沿岸航路の泊地。米・塩・木材など、生活用品の移出港。能登鉾山の石膏積出港でもあった。1962年（昭和37年）頃から七尾～奥能登間の定期船運行に伴い、珠洲地方の発着港になった。1975年（昭和50年）から1979年にかけて、佐渡を結ぶフェリーポート、ホバークラフトが就航した。

明治初期の7月20日、21日の納涼祭に富山県氷見の山車を模して作ったという高さ7～8mの灯籠山車が出たという記述がある。

## 若山地区

地名の由来は古代の若倭郷という郷名の転化といわれる。平安期に成立した荘園「若山庄」は珠洲郡の6分の5強の面積を有したといわれる。

若山町経念の井林から旧石器時代の遺物が出土。

大火をうけて一時仮堂を建てた飯田の乗光寺が、飯田町に復帰する際に出田門徒が反対して離壇。それを継承する形で京都市の西光寺を移転し堂宇を建立した（1901年）。

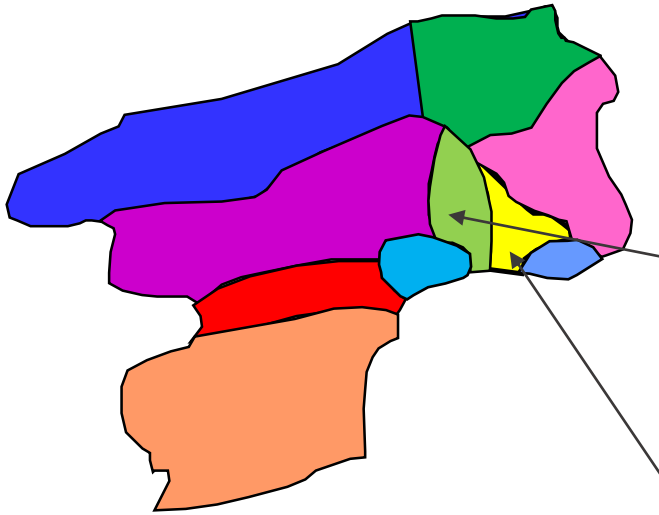
1920年（大正9年）から大字中田で石膏採掘（能登鉾山）が開始、1969年（昭和44年）まで続いた。

黒丸家住宅は江戸初期の建築といわれ、国の文化財になっている。

上正力地区は、通称「鍛冶屋敷」に、中世とみられる上正力タタラ遺跡があり、近接して上正力中世墳墓群がある。山川の河谷を隔てて南に宝立山を仰ぐ地で山岳信仰との関連が強く、大伏・福伏家の先祖は修験者と伝える。1956年（昭和31年）大規模な地滑りがおきた。

鈴内地域には鈴内横穴群があり、96基が確認され、須恵器・玉類が出土している。

延武の栗林社はもと栗林山に鎮座していたといい、イナゴ除け祈祷を行っている（1828年）。



人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
 面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課  
 河川・山岳：平成26年10月1日 珠洲市建設課  
 学校：平成26年5月1日 珠洲市教育委員会

## 直地区（ただ）

世帯数：452世帯  
 人口：1,221人  
 面積：8.08km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 金川（4.4km）正院地区との境界  
 学校：直小学校（児童数89名）  
 ※日置地区の児童も通学している  
 緑丘中学校（生徒数239名）  
 ※上戸、飯田、若山、直、正院、蛸島、  
 日置地区の生徒が通学  
 石川県立飯田高等学校（生徒数438名）

## 正院地区 （しょういん）

世帯数：642世帯  
 人口：1,541人  
 面積：11.89km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 金川（4.4km）直地区との境界  
 飯川（2.0km）、岡田川（3.2km）  
 学校：正院小学校（児童数40名）

## 直地区

直村は、野々江、岩坂、熊谷3か村が合併して成立。

古墳期の野ノ江ハゲノマエ横穴群（25基）、妙珠寺遺跡、スギノエ遺跡がある。

明治初期から竹製品の製作が盛んになり、蚕籠、魚入籠、移出魚籠、繭籠などを鳳至郡・富山県に移出していた。

1964年（昭和39年）国鉄能登線珠洲駅開設。

岩坂には7世紀のころとされる横穴古墳があり、直刀、鉄鏃、須恵器が出土。横穴には船の線刻画がある。岩坂ダムによって水没地域の数戸が移転。

熊谷地区では、羽黒山支丘に2基の横穴が発見されており、古墳中期に成立した集落跡、あるいは祭祀跡とみなされている。

## 正院地区

古代郡家の正倉、北陸道の駅路の最終駅の珠洲駅が置かれ、平安初期に行政機構の縮小策によって廃駅といわれる。

地内には館薬師として祀られている室町中期～末期の3基の板碑のほか、50基近くの五輪塔の残欠、26基の板碑が海岸近くに残る。

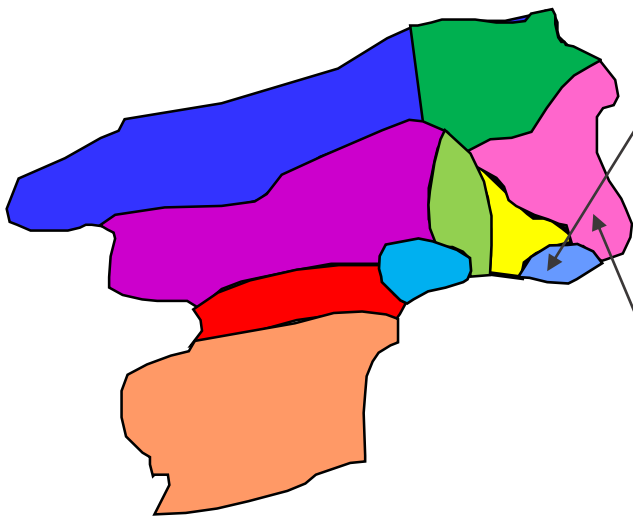
長浜八幡宮近くに御子塚、飯川下流西沿いに弘法清水の伝承を持つ「聖水の井」がある。全面積の4割ずつを田畑、山林が占め、林業もさかんであった。

神事能の舞台があり能面などを所蔵する八幡宮は鎌倉時代より猿楽で賑わった。

江戸末期には日用雑器を中心とした青九谷系の正院焼が興るが廃窯。

江戸末期には、正院産の干イワシ、干アワビ、マグロ、油粕、灰、ねいごほうきなどが出荷されていた。また、正院素麺がつくられ、広く流通した（ほかにも飯田、蛸島で生産）。

飯塚地区は七人百姓によって開かれたとされ、地名は、丘陵はずれにある円墳状の塚で、山姥の飯を恵んでいたという伝説にちなむ。



人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
 面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課  
 河川・山岳：平成26年10月1日 珠洲市建設課  
 学校：平成26年5月1日 珠洲市教育委員会

## 蛸島地区（たこじま）

世帯数：559世帯  
 人口：1,388人  
 面積：3.10km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 —  
 学校：蛸島小学校（児童数42名）

## 三崎地区（みさき）

世帯数：937世帯  
 人口：2,350人  
 面積：31.07km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 紀の川（6.4km）、栗津川（1.7km）  
 山伏山（172m）  
 学校：みさき小学校（児童数90名）  
 三崎中学校（生徒数48名）

## 蛸島地区

海岸に船舶の目標となる高さ20mの山王の森（高倉彦神社の社叢）と呼ばれる小高い丘、沖合い400mに周囲200m余の弁天島があり風波を防ぐ。砂浜の割に海が深いこともあって古くから漁港として栄えた。珪藻土製品および珠洲瓦の移出港でもある。

地名は、山王の森の沖に大蛸がいて、船中の人や近郷の人々を食していたが、土地の山神に退治され、島に化したためとも、島に蛸が多くいたことによるともいわれる。

蛸島大池は約100年前に築堤されたといわれる。

やや規模の大きい砂丘があり、縄文土器が数点、砂丘内陸部から出土している。

江戸時代、蛸島素麺は特産品として各地で販売（明治の終わりから衰退）。酒造屋も4軒あった。

イワシ、タイ、ブリが漁獲高の7割を占めていた。1897年（明治30年）頃から副業蚕糸が盛んになった。

## 三崎地区

寺家、栗津、大屋、森腰が合併して成立。金剛岬、遭崎、宿崎の3つの出崎を総称する地名。

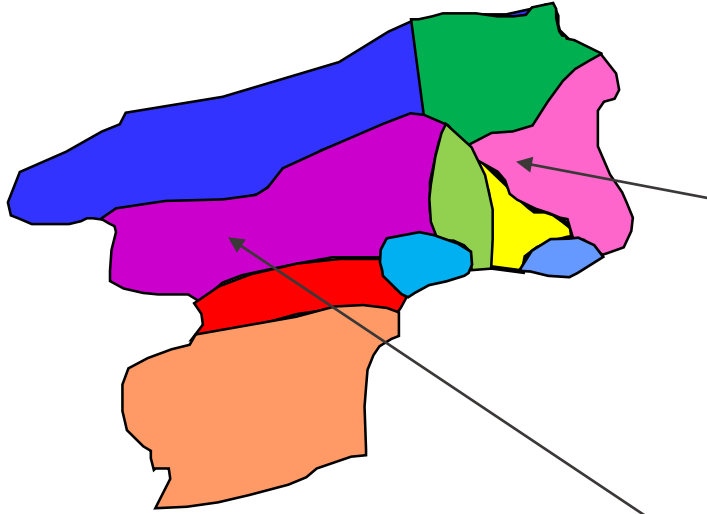
大正期、農業の副業として蚕糸、魚号、果実蔬菜栽培、藁製品などが行われる。工業としては瓦、珪藻土などがつくられていた。

寺家の地名の由来は、式内社と伝えられる須須神社の僧房群が所在したことによる。須須神社にちなむ神島・姫島などの小島が点在。奥社のある山伏山は、能登半島の先端にあたり、古代以来海上交通の安全を祈る山であった。社宝には鎌倉期の木造男神寺像5体（国重文）がある。社叢は国天然記念物。源義経が寄進したという蝉折れの笛が伝来。1630年までは珠洲一郡を巡行する「御出御幸」（おいでみゆき）と称する祭礼があったとされる。

塩津は北前船の寄港地であったとされる。

引砂は頓智話の主人公として能登一円に語られるサンニョモンのいた地として名高く、伝説に富む。

雲津の竹沢からは旧石器時代の石槍が出土。高波縄文遺跡は伏見川の河口近くに位置し、古墳時代の製塩遺跡とも重なる。



**日置地区 (ひき)**  
 世帯数：218世帯  
 人 口：491人  
 面 積：20.47km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 折戸川 (1.6km)、山伏山 (172m)  
 学 校：－

**大谷地区 (おおたに)**  
 世帯数：515世帯  
 人 口：1,167人  
 面 積：50.50km<sup>2</sup>  
 主な河川・山岳：  
 珠洲大谷川 (2.3km)  
 猫ヶ岳 (413m)、水山 (405m)  
 鞍坪岳 (366m)  
 学 校：大谷小中学校 (西部小学校児童数22名、大谷中学校生徒数21名)  
 ※平成28年度より大谷小中学校

人口：平成28年8月31日 住民基本台帳  
 面積：平成24年10月1日 珠洲市総務課  
 河川・山岳：平成26年10月1日 珠洲市建設課  
 学校：平成26年5月1日 珠洲市教育委員会

## 日置地区

日置村は昭和64年に折戸、狼煙、狼煙新、東山中、川浦、唐笠の6か村が合併して成立。地名は源平盛衰記に登場する日置氏と関連があるといわれる。

その後、大谷、大崎両村と合併し西海村となる。西海村は昭和13年農村経済更生村の指定を受け、昭和14年には西海村分村として満洲入植を開始。

折戸集落の背後は急崖で、その丘陵上に縄文中期の折戸遺跡がある。

狼煙地区の由来は王政の昔、海上警備のために、烽火を設けし旧跡とするところとある。

古墳後期から奈良平安期にかけての製塩遺跡の分布が顕著である。

## 大谷地区

則貞には平時忠一族のものという中世の墓群 (県史跡) や歌碑がある。烏川の由来は時忠の太刀の烏丸によると言われる。笹波地区は波の紋 (さざ波) に由来するといわれるが、「能登名跡志」に絶景也と記されている。

清水の薬師堂に安置されている薬師如来は利長家の先祖が夢告により海から拾い上げたものといわれる。白山神社の2月6日のお祭りで振る舞われた餅は半煮の小豆の粒のついた餅で、地滑り除けの祈願が込められている。2月26日のニワマツリには、白山神社で五穀豊穰を祈願したあと、当元に集まって直会をする。当渡が終われば、当元の庭に臼を伏せ、それを囲んで、夜を徹して踊りの輪が繰り広げられたという。

高屋港は、古くから漁船はもとより、日本海航行の渡海船の風待ち・凧待ちの停泊地。回船業者や寄泊する船を相手の商家もありにぎわったと伝えられる。

真浦の垂水の滝はかつてさかさま川といわれた。真浦の白山神社の神体は、この地開拓の祖である刀禰孫右衛門が海中より拾い上げたものと伝えている。

仁江の這坂は人ははって登るほどに急ということに由来する。仁江・真浦海岸の落日を写した観光ポスターが、1962年 (昭和37) に世界観光ポスターコンクール展で優秀作品に選ばれた。

馬縹は義経の馬を繋いだという由来からくる地名。縄文晩期と推定されるカメガタン遺跡と珠洲陶のカメガタン窯跡 (国史跡) がある。秦氏が15年かけて写経した大般若経600巻が四坪薬師寺に寄進されている。外浦でも製塩の盛んな集落で、製塩労働歌「砂取節」が県指定の無形民俗文化財になっている。馬縹峠一帯は国営パイロット事業による開発が進み、放牧場・クリ園・クワ園などの農地造成が行われた。行司第13代木村庄之助の出生地。

片岩白山神社の「叩き堂祭」は「まないたなおし」または「むかいど」ともいわれ、奇祭として有名。



参考文献

珠洲市制五十周年記念「珠洲のれきし」

平成16年7月15日発行

編集 珠洲のれきし編さん委員会

委員長 橋本秀一郎